

活動履歴と今後の予定

- 1/6 共助の見守りWG
- 1/17 錦町東住宅役員会
- 1/20 共助の見守りWG
- 1/25 しおたが被災者支援ネットワーク会議
- 1/29 「自治会ラジオ相談室・パート2」収録
- 2/7 あすと長町第三住宅みのり会役員会
- 2/8 八本松児童館防災講演会
- 2/11 南青山アパート番屋お披露目会&鍵引き渡し
- 2/16 第7回理事会
- 2/20 北浜住宅役員会
- 2/21 清水沢東集会所利用グループ懇談会
- 2/21 錦町東住宅役員会
- 2/24 ラララ♪荒浜コンソーシアム第1回協議会
- 2/26 自治会研修・交流会@気仙沼登壇
- 3/1 あすと長町居住者・支援者連携協議会
- 3/6 第18回つながりデザイン会議
- 3/7 あすと長町第三住宅みのり会役員会
- 3/14 荒浜記憶の継承みらい会議
- 3/20 北浜住宅役員会(コロナ対策のため延期)
- 3/21 錦町東住宅役員会(コロナ対策のため延期)
- 3/26 塩竈市被災者支援ネットワーク会議

あすと食堂、
お休み中です…

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
お休みしています。

再開を
どうぞ
お楽しみに！

会員数
正会員 35
賛助会員 23

facebook
いいね!数
526

2021年3月1日 現在(前号比)

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町から始まり広がった復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動を続けていくためには、皆様からの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願いいたします。賛助会費及び寄付金は寄付金控除の対象となります。会員登録やご寄付は、ネットからもお手続きいただけます。 <https://tsunacen.thebase.in/>



継続的に応援するには
正会員又は賛助会員にご入会ください。
・正会員:年間6,000円・総会議決権あり
・賛助会員:年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先
＜口座名義＞特定非営利活動法人つながりデザインセンター
●郵便振替：02230-8-121908
●郵便振込：ゆうちょ銀行 二二九支店（ニニキュウ） 当座預金 0121908

会員団体のみなさま

@グリーン(宮城大学ボランティアサークル) 安全安心なまちづくり SD不動産 NPO法人アートワークショップすんぷちょ
NPO法人 仙台傾聴の会 NPO都市住宅とまちづくり研究会 NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊
NPO法人 みやぎ「こうでねいと」 株式会社ミツイ 共立女子大学 高橋研究室 グループひまわり CASEまちづくり研究所
高齢者配食サービス「ほっと亭」 今野不動産株式会社 社会福祉法人ライフの学校 仙台白百合女子大学 佐々木研究室
仙台南健康友の会 つばさ薬局長町店 東北工業大学 新井研究室 東北工業大学 谷本研究室
東北大学 東日本大震災PGT支援機構 東北福祉大学 平泉研究室 東北学院大学 坂本研究室 都市建築設計集団/UAPP
長崎大学安武研究室 宮城厚生協会長町病院 宮城大学 森本研究室 有限会社栗駒建業

役員名簿

代表:薄田 榮一
副代表:新井 信幸
理事:及川 多香子
理事:加藤 渉
理事:松原 久
理事:宮本 愛
監事:金沢 和樹
監事:佐々木 裕子

編集後記

今年の仙台の3.11は本当に穏やかな1日でした。風呂に入れず寒い日が続いた10年前には描けなかった日常でした。今度は新型コロナ。「絆」と「ソーシャルディスタンス」、真逆にも聞こえる言葉がそれぞれの災禍の行動規範になりました。しかし、どちら相手への「思いやり」がなければ成立しない、させてはいけいない言葉。それを肝に、足りない自分をアップデートさせていきたいと思っています。〈新井〉

認定NPO法人

つながりデザインセンター

〒983-0841 仙台市宮城野区原町五丁目5番35号 熊谷ビル205

TEL 080-3205-5177
MAIL asuto@tsuna-cen.com
WEB www.tsuna-cen.com

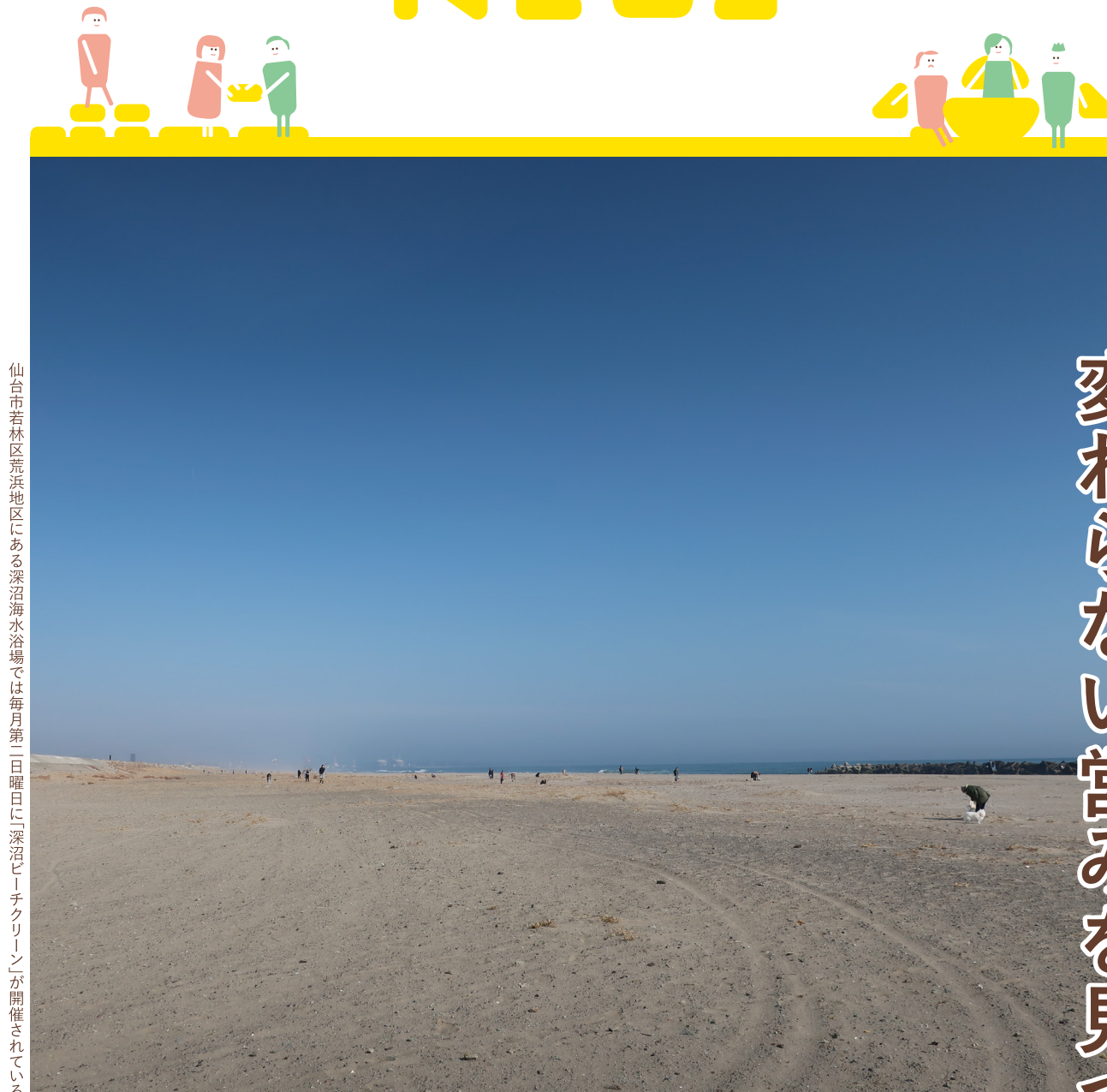
GOOD DESIGN AWARD 2018

18
2021.03

つなセン

TSUNAGARI Design Center

NEWS



仙台市若林区荒浜地区にある深沼海水浴場では毎月第二日曜日に「深沼ビーチクリーン」が開催されている

変わらない営みを見つめて

荒浜の記憶の継承へー移転跡地利活用プロジェクトへの参画ー
つながりデザイン会議開催／ブックレット発行します
清水沢東集会所利用グループ懇談会を開催
岩沼空き家活用プロジェクト最終章
【団体紹介】社会福祉法人 ライフの学校

活動報告

Main Topic

荒浜の記憶の継承へ ―移転跡地利活用プロジェクトへの参画―



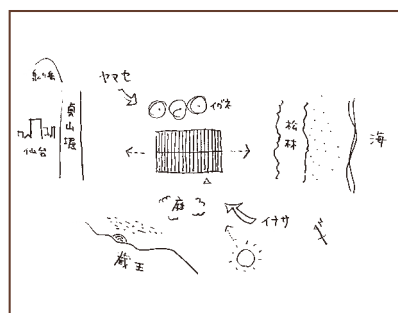
1 モノトーンの風景を彩る

東日本大震災から10年が経ち、世間には復興が一区切りを迎えたという空気が漂っていますが、一方で、これから復興の本番を迎える地域も存在しています。仙台・荒浜は2011年3月11日の大津波によって約750世帯のほとんどの家屋が流出し、186名が犠牲となりました。その後、一帯は災害危険区域に指定され、住民は内陸に集団移転、災害公営住宅への入居、独自に住宅確保などとして、各地に移転していきました。移転と並行して住民たちはそれを支える市民たちと協働して、荒浜ににぎわい



▲仙台市若林区荒浜地区の現在の様子

を取り戻そうと独自の活動を進めていきました。自宅跡地に「里海ロッジ」や「海辺の図書館」と命名した小屋を設置し、それぞれ震災前の荒浜の暮らしや文化等の情報発信を行ったり、イベントを通して来訪者との交流を楽しんだりしています。また恒例だった「灯籠流し」を震災後も継続させたり、「HOPE FOR project」という3月11日前後に小学校の卒業生が中心となって花の種を乗せた風船を空へ飛ばすイベントや、地元の食材を活かした調理や田植えなどの体験型イベントを開催する「荒浜のめぐみキッチン」が始まったりしています。さらに、海辺の「ビーチクリーン」が月1回のペースで開催され、毎回100名近くの一般市民も参加しています。こうした人々の営みによって、この10年間モノトーンの風景が広がっていた荒浜は、少しずつ町としての彩りを取り戻しつつあります。



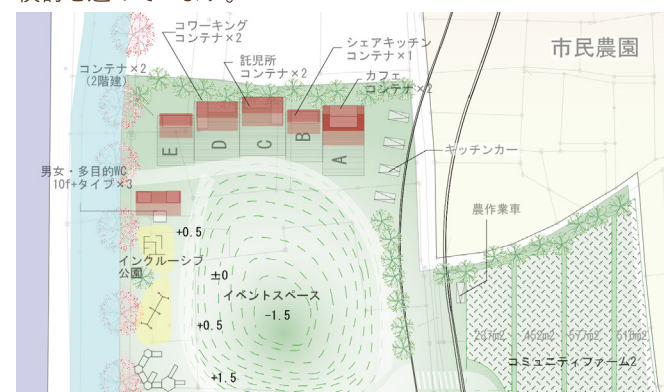
▲「暮らしの方向感覚」イメージ図



▲3月14日には、荒浜の住民の方々に登壇いただいた「荒浜の記憶の継承」をテーマにトークイベントを開催しました。その内容については、次号以降で改めてご報告させていただきます。

2 移転跡地利活用に向けて

2018年3月には8ブロック約35haの市所有の移転跡地を貸し出して、民間が独自に利活用する取り組みが始まりました。そこには7事業者が参画し、果樹園、農場、市民農園、アウトドアレジャー、交流拠点などの利用に向けて整備が進められています。そして、そのうちの1事業者として今野不動産株式会社(つなセン会員)が1.3haの敷地を借り受け、その利活用計画についてつなセンも協働して検討を進めていくことになりました。現時点で、コミュニティファームを中心とした子育て世帯の交流拠点の計画の検討を進めています。



▲コミュニティファームを中心とした子育て世帯の交流拠点の計画案(一部)

3 荒浜の暮らしの方向感覚

この計画では「荒浜の記憶の継承」を重要なテーマとしています。壊滅的な被害にあった荒浜ですが、遠方の山並みや集落の中心を貫く貞山運河など、震災前に毎日のように目にしていた風景の一部が残っています。そうしたことを踏まえて、荒浜の暮らしに染みついていたと思われる「方向感覚」を施設の配置計画等に反映させられないかと考えています。そうすることで、かつての自宅であつたあの頃の感覚をもう一度味わってもらえるのではないかと考えています。

会員 団体紹介 No.18

社会福祉法人 ライフの学校



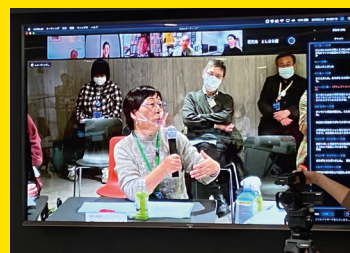
『支えあって、学びあってすべてのひとの「人生」を豊かに。』をミッションに掲げ、人と人とがやさしく支えあえる社会を目指して、社会福祉事業を展開しています。特別養護老人ホーム、デイサービスセンターがある「萩の風キャンパス」、居宅介護支援センター、訪問ヘルパーステーションがある「上飯田キャンパス」、障害や難病の方の就労支援の場、「沖野キャンパス」があります。また2021年度には、就労支援センターも兼ねたカフェ事業「霞目キャンパス」、2022年度にはグループホーム(認知症対応型)「幸町キャンパス」がオープン予定です。

日々のケアの中に、「いのち」や「暮らし」や「生きる」についてのたくさんの学びがあり、「この学びをたくさんの人たちと分かちあいたい」と考え、福祉施設を地域にひらき、学びあいの拠点にする活動を行っています。人生の先輩である高齢者や障害のある方との対話から「いのち」や「生きる」を学ぶプログラムや、週末には、子どもをはじめ地域の人たちが参加する「暮らし」を学ぶプログラムを実施しています。

Topics

つながりデザイン会議開催／ブックレット発行します

3月6日、第18回つながりデザイン会議「共助の見守りと孤立を防ぐコミュニティ」を開催しました。被災地では、社会的孤立や孤立死への懸念から住民同士がおこなう「共助の見守り」への関心が高まっています。本会議では、地域における見守りの多様な形を整理し、その中で住民が担う役割に着目して議論を行いました。



登壇者の栗石かほるさん(東松島市あおい地区会)、野崎瑞樹教授(東北学文化大学)、田中正人教授(追手門学院大学)、佐藤史彦さん(NTT東日本宮城事業部)、五十嵐敦子さん(つなセン会員)からは、見守り活動の

事例、専門家の役割、社会的孤立を防ぐ空間デザイン、ICTの活用など、多側面からのお話をいただき、会場・オンライン含む54名の参加者からは活発な質疑がありました。

3月末には、これまでの調査や検討を踏まえた「共助の見守りブックレット～住民が見守りに取り組むときに知っておきたいこと」の発行を予定しています。どうぞ楽しみに!



清水沢東集会所利用グループ懇談会を開催

清水沢東住宅(塩竈市)では、2019年度から住民組織である清水沢東会が集会所管理を担っています。外部に開かれた運営がされているため、現在、13の団体・サークルが定期的に利用し活気のある集会所となっています。

2月21日には、清水沢東会主催により、利用方法への要望や来年度のスケジュール等を話し合う集会所利用グループの懇談会が開催されました。利用規程の変更や集会所パンフレットの発行などが議題となり、管理者と利用団体が活発に意見交換する場となりました。



岩沼空き家活用プロジェクト最終章

岩沼空き家活用プロジェクトが2020年7月に始動して9ヶ月が経ちました。つなセンのサポートは2021年3月末で一区切りとなります。11月にレンタルスペース岩沼れんがのうちのオンライン利用予約がスタートし、毎月1回程度の利用予約が入っています。これまで岩沼の子育て支援団体ちびぞうくらぶさん、オーナーの佐藤さん、岩沼周辺の親子さん、その他様々な方々のお力添えで、4回のお試しイベントを開催することができました。利用促進のためのポストカードも作成しました!4月からはオーナーさん主体の運営になります。今後の発展を願っています。

